

Karibu Kenya!

☆JICA 海外協力隊　ケニア通信 No.8☆　2026年10月25日　発行者:夏目佳代子

Habari yako?（ハバリ ヤコ？）これも「元気ですか？」というあいさつです。スワヒリ語のあいさつは他にもあります。親しい間柄やカジュアルな場面では、Mambo?（マンボ？）や Sasa?（ササ？）に対して、Poa.（ポア）や Fiti.（フィティ）と返します。そして、初対面でなくても、握手をすることが多いです。更生学校の子どもたちは、こんなあいさつも教えてくれました。





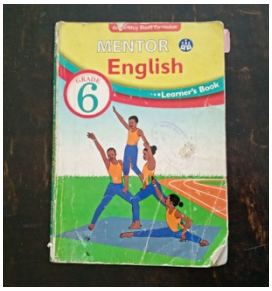
お互いの手をパチン！とたたき → 指相撲のように親指を合わせる → それぞれの親指を右にずらす これを流れるようにします。ぜひやってみてください！

☆予想外すぎた授業初日

JICA 海外協力隊には 177 種もの職種がありますが、同じ職種でも、配属先によって要請内容は異なります。キリギティ女子更生学校の要請内容は、

①基礎的な英語・算数クラスを担当する。
②ライフスキル向上につながる音楽やアート、スポーツなどを課外授業に取り入れる。
③子どもの更生・社会復帰につながる活動のアイディアがあれば、相談の上実施する。
④コミュニケーションスキルの向上、継続的な支援を実施するため、地域の支援者とのイベントやクラスを提案、実践する。

とありました。更生学校は、運営部門、福祉部門、教育部門に分かれています。９月の活動初日、教育部門の校長先生にあいさつをして、授業について教えていただきました。授業は火曜～金曜の午前中行われ、子どもたちは２クラスに分けられています。６年生と９年生（日本の中３にあたります）となっていますが、実際の年齢や学年はバラバラです。英語の教科書を受け取った後、授業を見学させてもらおうと思ったら、「今９年生のクラスは先生がいないので、行ってください。」と言われました。えーーっ！！まだ名前と顔も一致しないのに？！！



☆６年生の英語の教科書

でも授業が行われていなければ見学しようもないので、行くしかありません。教室に入ると、２６人の子が思い思いのことをしていました。どうしよう・・まず、一人ひとりの席を回り、何をしているか聞いてみることにしました。数学、英語、毛糸で手芸、周りの子とおしゃべり、何もせず・・みんな教科書を持っておらず、授業はできそうにありません。自己紹介をした後、頭をフル回転して考え、ノートを小さく切って渡し、英語で自己紹介を書いてもらうことにしました。そして、別の小さな紙にその子の名前を英語とカタカナで書いて渡していきました。喜んでもらえたのはよかったけれど、これからちゃんと授業ができるのかな・・と不安が募ります。

後日、更生学校のことをいろいろ聞く中で分かったのは、以前は先生が複数みえたけれど、今は校長先生しかいないということ。子どもたちの年齢や学年、学力も異なり、中には小学校をドロップアウトした子もいる中で、それぞれの学年で本来学ぶ多くの教科をすべて教えるのはとても難しいということです。大学生４人が、コミュニティサービス（社会奉仕・地域貢献活動）として、週３回、３ヶ月間更生学校に来ていて、彼らと授業を分担することになりました。私は週に２回、６年生のクラスを担当しています。日々ハプニングだらけです。

☆裁縫クラスを始めました

更生学校では、授業だけでなく、職業訓練も行われています。月曜は１日美容の授業。髪の編み方などを習います。火曜～金曜の午後は電気の授業。配線の仕方などを学びますが、実習は６人しかできません。他の子は、時々グループセッションやカウンセリングを受けますが、それ以外は時間を持て余しています。前任の隊員が使ってみえたピアニカやリコーダーがあり、子どもたちの希望もあり、やってみることにしました。まずはしばらく使われていなかった教室の掃除からです。机も入れて、ピアニカを置きました。席に座った途端、それぞれ思いのまま弾き始めました。最初にピアニカを弾いた時は誰もがそうかと思いますが、みんなが思いっきり弾くので、すごい音量です！さらに、リコーダーを吹く子もいて、全然声が通りません！「キラキラ星」の楽譜が残されていて、鍵盤にも音名が書いてあったので、手を叩きながら、一緒に弾きながら、なんとかそれらしい曲になりました。でも・・途中で飽きて出て行ってしまったり、オレンジを手に現れたり、大変な騒ぎでした。最後に片付けをしてくれた子もいてなんとか終えましたが、終わった後は嵐が過ぎ去った感じでした・・



☆砂だらけの床がきれいに

同じ教室に、キテンゲのハギレもありました。服を仕立てた残りで、大きさも形もさまざまです。前任の隊員と一緒に裁縫をしたことがあるという子が、布の仕分けを手伝ってくれました。別の日、裁縫のクラスをやってみることにしました。ピアニカの時のことをブレンダさんと話し、針に限りもあるので、まず５人。藤の花のつるし飾りを作ることにしました。日本での訓練中、手縫いでできる布小物を考えていたときに、これを作ってみたらどうかと教えていただいたのです。出発前に、地元の方に作り方を習い、見本までいただきました。見本を見せると、みんな「きれい～！作って食堂に飾りたい！」と好反応。ですが、１回目は５人と言ってもやはりてんやわんやでした。やってみて気づくことがあります。布は柔らかくて折り目がつきにくいので、まずは紙で練習してみることに。布の折り方も簡単にしました。１コマ３５分の授業になかなか気持ちが向かない子も、縫うことは楽しいようで、１～２時間近く作り続けています。おしゃべりは止まりませんが・・笑



☆みんな触りたくてたまりません





７cm 四方の布から、小さな山のような藤の花の飾りができます。
プライバシーの関係で顔をお見せできないのが残念ですが、みんないい表情です。



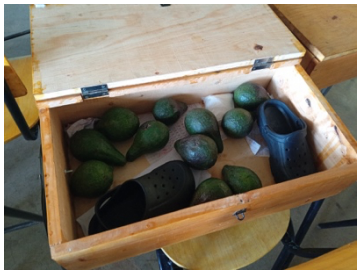
☆みんな大好きアボカド

更生学校の子どもたちは、最近よくアボカドを手にしています。隣の敷地に大きなアボカドの木があり、熟して更生学校側に落ちたものは拾ってよいそうです。休み時間やお昼ごはんに食べたり、中には自分のベッド脇や机の中にしまったりする子も。私にも分けてくれました。また、大家さんやスタッフからもいただき、一時は家に７個もアボカドがありました。よく見ると種類が様々ですが、どれも濃厚でおいしいです。道端でも、１つ３０～５０シリングほどで売っています。



☆大きなアボカドの木





ある日、ある子の机の中を見てみたら、、、アボカドでいっぱいでした！！
みんな大好きです。

※１ケニアシリング≒１．２２円（10 月 25 日現在）

それではまた！ Tutaonana!